

ドキュメンタリー映画
『シリーズ憲法と共に歩む』第1篇 片桐直樹監督

上映会
&
懇談会

戦争をしない国 日本

この映画は、憲法公布60周年にあたり、
日本国憲法とその平和主義をめぐる規定がなぜ、どのように誕生したのか、
それは日本社会と国際社会にどのような役割を果たしてきたのか、
日本国民と各階層はそれをどのように受けとめてきたのか、
などについて歴史的な映像によって検証するものです。



迷彩服を着た自衛隊員が地下鉄に乗り込んで訓練



安保条約に反対する大闘争



戦前の日本社会は…

この映画企画者の一人、大澤豊氏を囲んで

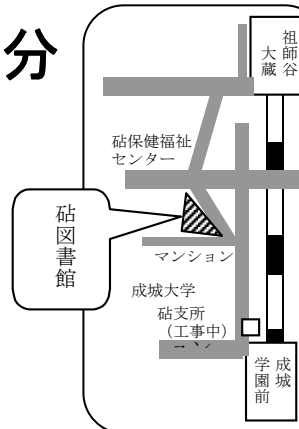
とき : 5月20日(日) 1時30分~4時30分

ところ : 砧図書館 地下1階 集会室

(図書館に入って、階段かエレベーターで地下に下りてください。)

参加費: 資料代700円

(学生および70歳以上の方は500円)



大澤 豊(おおさわ ゆたか)氏

『ガキ大将行進曲』『遙かなる甲子園』『ボクちゃんの戦場』『GAMA一月桃の花』『アイ・ラブ・ピース』などの数多くの劇映画を監督、プロデューサーとして『戦争と青春』(今井正監督)『ベトナムのダーちゃん』(後藤俊夫監督)などを手がける。『日本の青空』の監督

片桐 直樹(かたぎり なおき)監督

『裁かれる自衛隊』『自衛隊』『トンニャット・ベトナム』『生きるための証言』『日独裁判官物語』『人として生きる』など多くのドキュメンタリーを監督、一貫して社会的問題に取り組む。

主催・お問い合わせ 喜多見九条の会(準備会)
砧・大蔵九条の会
桜丘九条の会
成城九条の会
環境問題懇談会

もうすこし詳しく、この映画のことをお知らせします。
多くの方々にぜひ観ていただきたいのです。
そして、日本の国のこと、憲法のこと、真剣に考え合いたいのです。
みなさんを誘って、いらしてくださいませんか。

ドキュメンタリー映画・シリーズ憲法と共に歩む第1篇「戦争をしない国 日本」

(1) 映画の内容は？

表に書かれているとおり、この映画は憲法公布60周年にあたり、日本国憲法とその平和主義をめぐる規定がなぜ、どのように誕生したのか、それは日本社会と国際社会にどのような役割を果たしてきたのか、日本国民と各階層はそれをどのように受けとめてきたのか、などについて歴史的な映像によって検証するものです。

具体的には次のような映像によって構成されています。

- ・「戦争」に備える自衛隊 — 自衛隊の存在と役割、米軍再編を問う
- ・なぜ日本国憲法は「戦争放棄・戦力不保持」を謳うことになったのか
- ・自衛隊の発足と海外派遣の背景にあるアメリカの意向 — その歴史の事実を知る
- ・基地反対闘争・安保闘争・核兵器廃絶のたたかいを学び国民の力を再確認する
- ・自衛隊の海外派遣がすすめられ、いよいよ「憲法改正」を唱える内閣が発足
- ・「九条の会」など憲法改悪反対運動の高揚

(ホームページ <http://filmkenpo.net/> より)

(2) このシリーズを企画した人たちって？

映画監督 橘祐典、片桐直樹、大澤豊 の3氏。

これまでの主な監督作品は

橘 祐典 (たちばな ゆうてん) 監督 「どぶ川学級」「教室205号」「あしたの火花」
「ガラスのうさぎ」「母さんの樹」 記録映画「にんげんをかえせ」「怒りの三宅島」
「住井すゑ百歳の人間宣言」など多数。

片桐 直樹 (かたぎり なおき) 監督
大澤 豊 (おおさわ ゆたか) 監督

※ 主な作品は、表に記載してあります。
※ 今回の上映会・懇談会に参加してくださる大澤監督は、今話題になっている「日本の青空」の監督でもあります。

(3) どうして、このシリーズを企画したの？

「映画人の意地を」片桐直樹監督のことば

「僕は昭和1ケタの最後の年(1934年)の生まれ。戦時中は疎開して、戦争の悲惨さは身にしみていますから、憲法を変えることが話題に上るとは、夢にも思わなかったですね。」 憲法を変えることに賛成の人が63% (一昨年ある新聞の世論調査) という数字を知ったときの愕然とする思い。それが映画を作るきっかけでした。「日米開戦の1941年からさかのぼる10年の日本の侵略の歴史が教えられていないし、戦後自分たちが戦ってきた歴史も教えられていない。平和憲法がなぜ生まれて、公布以来60年、国民はどう向き合ってきたのかを検証しよう、映画人であるからには、映画で描こう、と思い立ちました」

学生時代から山本薩夫監督に師事し、数々のドキュメンタリーを送り出してきた片桐さん、「憲法改悪を阻むために映画人の意地を見せたいのです。」(しんぶん赤旗日曜版より)